

緑のボランティア通信

2025.2.1

No.96

特集!

おとなの自然体験教室

「黄緑クラブおとな編」

当協会では、こどもと保護者を対象に自然体験教室「こども黄緑クラブ」を開催しています。そのなかで多くの保護者の方から「おとなだけでも参加できる自然体験教室を開催してほしい!!」というご要望をいただいていた。そこで、2022年からおとなも楽しめる緑地散策型の自然体験教室「黄緑クラブおとな編」を開催しています。今号では開催した全6回の風景を通して「黄緑クラブおとな編」をご紹介します。



2022年12月「東高根森林公園」
案内人：原久代さん



2023年3月「黒川よこみね特別緑地」
案内人：木村諭さん



2023年5月「王禅寺ふるさと公園」
講師：高柳芳恵先生



2024年2月「JR久地駅～久地梅林公園」
案内人：講師：佐々木洋先生

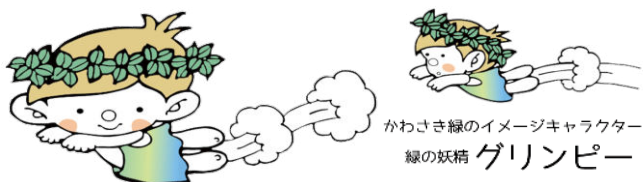


2024年6月「黒川地区周辺」
案内人：相馬直子さん



2024年11月「等々力緑地」
講師：佐々木洋先生

今後の黄緑クラブおとな編の詳細・申込については
当協会 HP 「こども黄緑クラブ」のページをご覧ください



かわさき緑のイメージキャラクター
緑の妖精 グリンピー

目次

特集 おとなの自然体験教室「黄緑クラブおとな編」	1
開催報告(10月~12月)	2
活動団体訪問・自己紹介コーナー	3
いそろう植物のヒトリゴト	4

開催報告（10月～12月）

川崎市緑化基金への募金活動

当協会では緑化の推進と普及啓発のためイベントに出展して市緑化基金の募金活動をしています。10月は「第46回中原区民祭」に参加して、募金活動とたねダンゴ作り体験コーナーを出展しました。また、11月は夢見ヶ崎動物公園の「第19回秋の動物園まつり」に参加し募金活動を行いました。



中原区民祭



秋の動物園まつり

当協会ではその他のイベント等にも参加し、川崎市緑化基金に 250,101 円を募金することが出来ました。（令和 7 年 1 月現在）募金にご協力頂いた方にお礼申し上げます。

里山ボランティア育成講座かわさきの森づくり

10月は長尾2丁目特別緑地（多摩区）、12月は王禅寺瓦谷特別緑地（麻生区）の2カ所で開催しました。どちらの緑地も初めて入る緑地でしたのでとても新鮮な活動となりました。

10月 長尾2丁目特別緑地（多摩区）



下草やツルの除伐



作業前



作業後

12月 王禅寺瓦谷特別緑地（麻生区）



緑地内の調査



休憩+ミニ講座



下草刈り



ヒコバエの整理

五力田見晴し公園管理運営協議会 (2023年登録)



活動場所 五力田見晴し公園 (麻生区白鳥4丁目24-2)
交通案内 小田急多摩線「栗平駅」下車 徒歩15分

私達の団体は「五力田見晴し公園 (ゴリキダミハラシコウエン)」という公園の管理運営協議会です。漢字から推察されるように【五人の力持ちが田んぼを耕していた農村地】が由来のようです。そんな農村地が都市化の流れで住宅地に造成され一部が緑地として残りました。地域一体は東京都稲城市と県境を共有しており、県境は高い尾根筋です。緑地政策で住宅化を免れた8300㎡の緑地は殆どが雑木林ですが、その尾根筋に遊歩道や遊具のある公園ができ、展望の良い所には二か所の展望台が作られました。展望台からは丹沢山系や富士山が一望でき、町田市や横浜市の高層ビルも見えます。晴れた日に富士山を仰ぎ背伸びする自分を想像してみてください。気分一新間違いありません。



そんなロケーションにある緑地公園を管理している私達10人のメンバーは月に一回この環境を守るべく低木の整枝、間伐、落葉掻き、展望の確保等の作業をしています。昨年はその展望確保のため、一念発起し篠竹の伐採作業に半年かけ汗をかきました。秋には集めた落葉で出来た腐葉土を近隣公園、花壇等に提供しています。また腐葉土にはカブトムシが卵を産み幼虫がすくすく育っています。



メンバーの皆さんは「人生、これ迄の恩返し」とボランティア精神にあふれ、熱中症に気を付けながら頑張っています。こんな川崎の最北端にある管理運営協議会ですがお近くまでお越しの節は是非お立ち寄りください。素晴らしい展望をご案内します。
(阿部 力)

三田第4公園愛護会 (2022年登録)



活動場所 三田第4公園 (多摩区三田3丁目5)
交通案内 小田急線「生田駅」下車 徒歩10分

三田第4公園愛護会は日曜日朝に公園で太極拳をやっているメンバーと、みた・まちもりカフェに集うメンバーが中心です。もともと町内会が行っていた愛護活動が高齢化でできなくなったということで、公園愛護会の活動を引き受けました。

毎月第一日曜日の7時半から8時までの清掃・植栽活動がメインですが、毎週日曜日に太極拳に集うメンバーで15分程度は清掃・植栽活動を行い、さらに毎日の水やりも公園で毎朝6時から運動をしているメンバーで行っています。日常のごみ拾いは公園を散歩しながら拾ってくださる方が何人もいますので、平日は汚れがひどい時に限って行っています。



昨年から、地域の人が集うお祭りを愛護会と明治大学の学生の共催で



始めました。地域の人たちが出会い、楽しめるようステージ、フリーマーケット、子どもたちの外遊び、ワークショップなどを行いました。

公園の植栽活動を通じて、道行く人が花壇の風景を楽しみ、作業をするメンバーも自分たちで育てている草花から癒され、元気をもらっています。
(塩沢 和美)

いそろう植物のヒトリゴト

知らず知らずのうちに花壇に入ってくる、いそろう植物たち。
本コラムでは植物の特徴をふまえながら、彼らの「独り言」に耳を傾けていきたいと思います。

イモってことは!?
オモ
と思ったそこのあなた。
そう、実は私、
ジツ ワタシ
食べられるんです!

15 「イモカタバミ」

(カタバミ科・カタバミ属)

Oxalis articulata

南アメリカ原産の多年草。戦後に観賞用として日本に持ち込まれて野生化した。花期は主に4～6月だが、夏に休眠した後、9月頃から再び咲き始め、長ければ1月まで開花し続ける。園芸的にはオキザリスの名前で知られ、改良された園芸品種が多く存在する。地下部にイモ状の塊茎を多数付け、耕耘の際などに株別れして増殖していく。この塊茎は、加熱して食用とすることができ、炒めるとピーナッツのような味がするという。ただし、シュウ酸を含むため、食べすぎには注意したい。

ナスってことは!?
オモ
と思ったそこのあなた。
ふいふい、私を食べて
ワタシ
しまったら・・・。

16 「ワルナスビ」

(ナス科・ナス属)

Solanum carolinense

北アメリカ原産の多年草。明治時代に関東で発見され、今では日本全国に広がっている。名前の由来は、文字通りの「悪いナスビ」として、牧野富太郎博士により命名された。果実は1.5 cm程度の球形で、黄橙色に熟すとミニトマトに似て一見美味しそうに見えるが、ソラニンという有毒物質を含むため食用にはできず、中毒症状を引き起こす。また、刈っても、根を刻んでも生えてくるほど生命力旺盛で、原産地では、「悪魔のトマト」や「ソドムの林檎」とも呼ばれている。

ペンネーム: きよすけ
(造園家・植物研究家)

植えてもいないのに生えてくる道ばたの小さな雑草たち。「雑草」とひとくくりにされてしまいますが、そんな“いそろう”たちにも一つ一つに名前と生態があります。このコーナーではそんな植物たちをご紹介します。新しく始まったこのコーナーのご意見、ご要望をお寄せください。参考にさせていただきます。

発行・編集

(公財)川崎市公園緑地協会 緑の推進支援係

〒211-0052 川崎市中原区等々力3-12
電話 044(711)6631 FAX 044(722)8410
<https://www.kawasaki-green.or.jp>